

平成 29 年度
理学部生物圏環境科学科
推薦入試

小論文

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないこと。
- 2 この問題冊子は、問題用紙が1枚、解答用紙が1枚、下書き用紙が1枚である。試験開始の合図があってから確認すること。
なお、試験問題に文字などの印刷不鮮明、落丁および解答用紙の汚れなどがあった場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- 3 試験開始後に、解答用紙の指定欄に受験番号を算用数字で記入すること。
氏名を書いてはいけない。
- 4 解答はすべて解答用紙の指定された解答欄に記入すること。
指定された解答欄以外に記入した解答は、評価（採点）の対象としない。
- 5 解答用紙以外は、試験終了後、持ち帰ること。

| |
|----------|
| 実施年月日 |
| 28.11.30 |
| 富山大学 |

(下書き用紙)

平成 29 年度 理学部生物圏環境科学科 推薦入試
問 題 用 紙

次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。

人類は、自然界から天然資源を採取し、それをを用いて道具や製品を製造、生産し、それらを消費、使用し、使い終われば廃棄するという形で、地球上において発展をしてきました。古代人が貝殻や獣、魚の骨等を廃棄した場所が貝塚として残っているように、人類の誕生以来、人間の活動において、廃棄物の発生は避けられないものといえます。

産業革命以降、特に 20 世紀は、大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会経済システムを構築しました。この結果、確かに人類は急速な経済成長を成し遂げ、人口も増加しました。21 世紀に入り、これまでのような先進国だけではなく、発展途上国において急激な経済発展と人口増大が予想され、廃棄物の発生量の増大など環境負荷の増加が懸念されています。

「平成 23 年版環境白書 循環型社会白書／生物多様性白書（環境省）より抜粋」

問、廃棄物の発生量の増大による、環境負荷の増加の具体的な例をいくつか挙げて説明しなさい。また、現状の対策の課題、および、今後必要とされる取り組みについて、あなたの考えを述べなさい。

平成 29 年度 理学部生物圏環境科学科 推薦入試
解 答 用 紙

| | |
|-----|-------|
| 科 目 | 小 論 文 |
|-----|-------|

| | | | | | |
|---------|--|--|--|--|--|
| 受 験 番 号 | | | | | |
| | | | | | |

| |
|-----|
| 総 点 |
| |

解答欄

| |
|--|
| |
|--|